

事例研究公開セミナー「トヨタ自動車と協豊会の実践」

この度、横浜国立大学成長戦略研究センターの研究プロジェクト「企業・産業・地域の境界を越えるイノベーションの戦略と組織マネジメント」では、公開セミナー「トヨタ自動車と協豊会の実践」を開催することになりました。つきましては、ご多忙中のところお繰り合わせの上ご参加頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

[日 時]： 2014年7月26日（土）14:00～18:00

[場 所]： 横浜国立大学 経営学部1号館2階 大会議室 下記参照

セミナー会場（地図のN3④）：http://www.ynu.ac.jp/access/map_campus.html

アクセス：<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

[担 当]：横浜国立大学国際社会科学研究院 真鍋 誠司

[プログラム]

14:00～15:00 講演と質疑応答 「燃える集団をつくる」（生形 厚志）

15:10～15:40 講演と質疑応答 「できることからの取組とモチベーションの維持」（小寺 敏宏）

15:50～17:15 講演と質疑応答 「自工程完結とは：トヨタと協豊会」（西村 浩一）

17:15～17:30 まとめ（真鍋 誠司）

17:45～19:30 懇親会（横浜国立大学 PORTY）

[セミナーの概要]

トヨタ自動車は世界に冠たる自動車メーカーであり、その強さについて多くのジャーナリズムやアカデミズムの立場で論じられています。今年は、「国産自動車事業を興す」という夢に向かってトヨタ自動車を創業した「豊田喜一郎」の生誕120周年であり、改めてトヨタ自動車について注目されています。

トヨタには、トヨタ創業当時から今日まで、その1次サプライヤーの協力会である「協豊会」があることはよく知られています。しかし、協豊会活動の実態については、ほとんど明らかにされていません。トヨタがスタッフの自工程完結（JKK）の取組を開始した翌年（2008）から、協豊会においても自工程完結の研究を始めています。そこで、本セミナーでは、この「自工程完結」をテーマにして、協豊会活動の実態について議論します。

講師には、協豊会の活動に熱心に参加されてきた3名の実務家の方々をお招きし、お話をいただきます。

[参加申込]：電子メールにて、セミナー/懇親会の出欠を7月21日（月）までにお知らせください。

（真鍋：manabe-seiji@nifty.com）

[参加費]：セミナー参加費は無料です。懇親会（出欠任意）は実費をいただきます。

[講師紹介]

■**生形 厚志**：日本精工(株)入社後、各種社長特命業務として、世界各拠点の立上、改善に取り組む。協豊会に2008年に参画し、その後、自社でのJKK浸透展開を行う。2011年に退社し、(株)統合生産方式研究所に移籍、中国を拠点として、JKK&TPSの指導を行う。2012年に社長に就任し、日本を拠点とする。現在、JKK、TPSなどの改善指導、講演で活躍中。そのHPは、「製造業」部門で常に高い評価を受けている。

■**小寺 敏宏**：(株)青山製作所総務人事グループに入社後、2011年に協豊会テーマ研に参画。青山でのJKK職場推進リーダーとして、活躍中。

■**西村 浩一**：日本発条(株)に入社後、TPS、TPMなどの全社展開を推進。2007年から協豊会テーマ研事務局長&アドバイザーとして、活動中。横浜国大工学部卒（1976年）。